

## 第2学年 国語科

### 教科のねらい

- ① 国語への興味や関心をもち、意欲的に学習する態度を育てる。
- ② 自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする力を身に付け、語彙力の向上を図る。
- ③ さまざまな材料をもとに自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして論理的に表現する力を身に付ける。
- ④ 目的に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する力を身に付け、読書によって自己を向上させようとする態度を育てる。
- ⑤ 漢字や言葉の意味を理解し、用途に応じて使い分ける力を身に付け、正しく美しい文字を書く力を育てる。

### ☆学習を進めるに当たって

使用教材	○教科書 国語（光村図書） 新しい書き写（東京書籍） ○副教材 国語の学習（正進社） すらすら基本文法（浜島書店） 漢字練習ノート（とうほう） 国語便覧（浜島書店）	持ち物	教科書 ノート ファイル 国語の学習 漢字練習ノート 国語便覧 すらすら基本文法
学習の進め方	《確かな学力を身に付けるには》 ○学習課題を把握し、課題に対して前向きに取り組もう。 ・疑問に思ったことや、わからなかつたことを解決する努力をしよう。 ・学習課題に対して多面的に見たり考えたりする力を付けよう。 ○自分の良いところを伸ばし、苦手なところにも挑戦しよう。 ・分かったこと、解決できたことに自信をもとう。 《家庭学習》 ○予習として、教科書を読み、新出漢字の練習をしよう。（「漢字練習ノート」） ○復習として、授業で習ったところを、ノートやワーク（「国語の学習」）等で確認しよう。 ○宿題・提出物を、期限までに着実に仕上げよう。 《定期テスト》 ○テスト発表時に通知された範囲を計画的に復習しよう。 ○授業中に学習したところを復習しよう。 ○放課後行う学習会（質問日）などを活用し、疑問点などを解決しよう。 ○テストが返却されたら、間違ったところをやり直そう。		
学習上の注意等	○授業中は先生や発表する人の話をよく聞き、気持ちを集中させよう。 ○積極的に自分の意見を発表しよう。 ○ノートに、自分の考えや感想も書き込もう。 ○授業中に配られたプリントはファイルにきちんととじて、復習に活用しよう。 ○家庭学習で時間に余裕が生まれたときは、読書・ワーク・漢字の学習・予習・復習などから各自が課題を選択し、自学自習を進めよう。		

☆学習内容および評価について

学習計画				評価にあたって	
学期	月	単元計画	試験	評価観点	評価の場面・方法
1	4	詩「見えないだけ」 小説「アイスプラネット」		国語に対する関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力	中間
	5	古文「枕草子」 書く・話す・聞く 「多様な方法で情報を集めよう」 「魅力的な提案をしよう」 言葉：熟語の構成			期末
	6	説明「生物が記録する科学」 言葉：対義語・類義語・多義語 短歌「新しい短歌のために」 「短歌を味わう」			
	7	情報「メディアと上手に付き合うために」 言葉：言葉を比べよう 隨筆「言葉の力」 文法「単語をどう分ける？」 読書生活を豊かに（読書教材）			
2	9	物語「盆土産」 隨筆「字のない葉書」			中間
	10	手紙「気持ちを込めて書こう」 論説「モアイは語る」 言葉：敬語			
	11	言葉：同じ訓・同じ音をもつ漢字 古文「扇の的一平家物語」 「仁和寺にある法師—徒然草」 「漢詩の風景」			
	12	評論「君は『最後の晚餐』を知っているか」 文法「走る。走らない。走ろうよ」 話す・聞く 「パネルディスカッション」 書く「意見文を書こう」 詩「落葉松」 書写（毛筆・行書） 読書に親しむ	期末		

3	1	小説「走れメロス」 文法「一字違いで大違い」 言葉：方言と共通語	学年末	言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を正しく書くことができ、文脈における語句の意味を正確にとらえることができる。</li> <li>・字形や字の大きさ、配置を整えて書くことができる。</li> <li>・日本語の文法を正しく理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字テスト</li> <li>・定期テスト</li> <li>・ノート</li> <li>・書写作品</li> <li>・課題などの提出物</li> </ul>
	2	漢字：「送り仮名」 論説「科学はあなたの中にある」 話す・聞く・書く				
	3	「表現の仕方を工夫して書こう」 「一年間の学びを振り返ろう」 詩 「鍵」				